

初めての門松作り

門松の作り方を教わったので作ってみました。

材料の竹。まずはマダケ。マダケ貰えそうなところに心当たりはない。兄の家にモウソウチク林があったので、モウソウチクで作ることに。さっそく竹を伐採に行った。持ち帰りは乗用車なので、積み込めるように長いもので約2.5mに切断。

まず立てる竹の加工。立てる竹を6本取らなければならない。あまり深く考えずに取ってきたので、太さもばらで3センチ～9センチ径。

5～6センチ径だと1.2mくらいの長さが6本そろいそうなので門松用竹の高さは1.2mに決める。

先は斜めに切るが、角度が揃ってないと見苦しい。角度を揃えるため合板の端材で定規を作る。定規は合板を竹と同じ



位の幅で適当な長さに切り、角度を決めて片端を斜めに切り落とす。この定規を竹にくくりつけ、定規の斜め部に沿って竹を切る。(左写真)

竹の切り口は節なしでも良いが、節を切り口に入れて笑顔をあらわすと縁起が良いらしい。切り口の下1/3くらいに節を持ってくる。この竹を形よく3本ずつ棕櫚縄で束ねる。竹の頭揃えは門松を据付けた時、未広がり八の字になるように束ねるのが縁起とのこと。

次は鉢作り。鉢は竹簾(たけすだれ)を輪にして中に土を入れて作るのだが、移動を考え中にプラスチックの市販の鉢を入れることにする。

鉢の周りに巻く簾作りが結構手間がかかる。まず市販のP鉢の高さに合わせて竹を寸切りする。次にこの竹を割って簾の材料にする。使った竹は7～8センチ径だったので6ツ割りにして拍子木状の竹片を作る。これを棕櫚縄で編むのであるが、材料が竹片とあっては滑りやすい。そこで一計。竹片の棕櫚縄が来る所に溝を作り(右写真)棕櫚縄の位置ズレを防ぐように工夫した。



助手がいれば編み易いが、年末のことで一人仕事。編み台は洗車用の脚立に長い合板を載せて代用。端には簾端を揃えるため棧木を万力で止める。棕櫚縄を3本ずつ脚立の梯子部に括り、竹片を編み込んでゆく。このとき反対側の引張りが必要なので棕櫚縄の反対側には錘(おもり)をぶら下げる。ここでは錘に石頭(せつとう)を使用。

右の写真は編み込みの状況である。竹片間を詰めるため木片と槌を使って締めてゆく。写真の右下にあるのは編みあがった竹簾である。

下の写真は竹簾を裏返したところである。棕櫚縄が竹片に刻んだ溝の中に納まり、ずれない。

余った竹で花活け用の竹筒を4本作っておく。この竹筒は鉢に埋め込んで活け込む植物の花瓶かわりに使う。



下左の写真はP鉢に竹などを活けこんだところである。最後にP鉢に竹簾を巻きつけて完成。



他に活け込んだのはマツ、ボケ(ウメの代り)、タケの枝、センリョウ(実付)、ナンテン(実付)、ハボタン。

マツは雄松と雌松を左右に置くのが本来とか。

竹の切り口は笑顔に見えていますか。竹の頭揃えは末広りの八の字になっていますか。良いお正月を・・・

元のページへ戻るにはブラウザの〔戻る〕ボタンをご使用ください。